

# 災害大国ニッポン ～過去の災害からの教訓～

11月18日(土) 13:00-15:00

会場：東京国際フォーラム(千代田区) ホールB7-1

日本では、近年、毎年のように犠牲者が出る大きな災害が起きており、日常から災害に備えることが必須の事項となってきています。備える上で、「これまでに起きた災害から学び、それを踏まえて次の災害に備える」という学びのサイクルを、政府・行政のみならず、国民や企業など、様々なセクターで行っていく必要があると考えます。

この分科会では、2011年に発生した東日本大震災と2016年に発生した熊本地震の被災地から、2名のリーダーをお招きするとともに、その発生が確実視されている南海トラフ地震の想定エリアから1名のリーダーをお招きしています。「もし、被災の1日前に戻れたら」「南海トラフ地震に備える」「復興を備える」の3つの観点から、リーダーや会場の皆さんとの対話の中から、防災・減災のあり方を探っていきます。

今後予想される大規模災害に備えるためには、その地域に住む・働く・関わるすべての人の積極的な関わりが必要になってきます。会場からのご意見もいただきながら進める参加型の分科会を目指していますので、ぜひご来場ください。

## 登壇者



川勝平太  
(静岡県知事)



大西一史  
(熊本市長)



菅原茂  
(気仙沼市長)

## ファシリテーター



### 今村文彦

(東北大学災害科学国際研究所所長 (津波工学教授))

津波研究のトップランナーとして、警報システム、軽減技術などを推進し、東日本大震災後に災害科学国際研究所の発足の中心として、学際的な災害科学の深化と実践的防災学を展開しています。